

平成 25 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立鯨江東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。
- 目標達成に向けて、いろいろな取り組みをしている。その成果もあがっていることがよくわかった。
- アンケートからいろいろな情報を得ることができるが、アンケートの取り方や指標とする数値の決め方など難しい面もある。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

- ① 本年度の学習理解度到達診断において、平均正答率を昨年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童を 50 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケートで、国語・算数の授業の内容が「あまりわからない」「わからない」と回答する児童の割合を前年度より減少させる。
(カリキュラム改革関連)
- ④ 本年度末の本校の保護者アンケートで「学力を定着させるような授業がおこなわれている」と回答する保護者の割合を前年度より向上させる。
(マネジメント改革関連)
- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- 学力テストを分析したりアンケートを行ったりして、成果や課題を明らかにできていると考える。
- 国語・算数の授業内容が「あまりわからない」「わからない」と回答する児童が少し増えているが、よくがんばっている。さらに減らすためには教員を増員することが必要だと思う。
- 保護者の考え方で、子どもたちの意識も大きく変わる。

年度目標：道徳心・社会性の育成

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。
 - ・ 自分にはよいところがある。
 - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。
 - ・ きまりや約束事を守っている。
 - ・ あいさつをしている。
 (カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を昨年度より増加させる。
(マネジメント改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を 70 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)

- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- あいさつについては、素直な声が出るようになってきているので、自己評価のとおり努力が実っている。
- 児童アンケートで後期に肯定的な回答が減っている項目がいくつかある。大きな行事が終わって少し時間もたっているので、積極的な回答をしにくかった項目もあるように思う。
- 地域と連携した防災訓練は、大きな成果をあげた。次年度も同じような防災訓練を実施する方がよい。

年度目標：健康・体力の保持増進

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「健康に気をつけている」の項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を70%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)
- ③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で前年度より上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- 学校生活アンケートでは、朝ごはんを食べている児童は多い。しかし、地域が行った調査結果とは差がある。(肯定的回答はもっと少ない。) アンケートは、提出先によって少し回答が変わってくるのかもしれない。
- 体力テストの結果、伸びている種目と、なかなか伸びない種目がある。柔軟性は時間がかかるので、継続して取り組みをする。

3 今後の学校運営についての意見

- 自己評価の結果は概ね良好で、達成状況も妥当である。さらに取り組みや啓発を進めていく。
- 社会の状況の変化とともに、子どもの質も変化している。それをふまえて指導することが必要である。
- I Tに対する親のかかわり方が気になる。
- 自尊心の育成にはきめ細かな指導が必要である。継続して取り組んでいく。
- 規範意識等「できて当たり前」のことについては、否定的な回答をする児童の気持ちのありようについて考えたり児童に問い合わせたりしてみる。(学校より)
- 資料は丁寧に分析されているが、短時間で見て、話し合うための工夫がいる。